

丁稚奉公から神の実業家に 鈴木留蔵物語



クリスチャンの全国的な集まりに行くと、並み居る著名な牧師たちに混じって来賓の扱いを受けている紳士がいた。しかも、牧師たちはお互いを「〇〇先生」と呼び合っているのに、彼には「鈴木兄弟」と呼びかけていたのが不思議であった。

この人こそ、土木建築で財を成し、その収益を惜しみなくキリスト教信仰の隆盛と伝道に惜しみなく注いだ「平信徒」鈴木留蔵氏であった。

およそ、全国的に大きな働きをした牧師の中で、鈴木氏の支援を受けなかった人はほとんどいないのではないだろうか。それほどにも、神のために喜んで多くの富を捧げ、自分のためには財を用いない人であった。

しかし、その生い立ちは悲惨なものであった。5歳の時に父親と死別。残された七人の子どもたちを養う責任は母親ひとりの手に委ねられた。早朝から深夜まで身を粉にして働いても、到底養えるものではない。そして次男の留蔵に白羽の矢が立った。小学校3年生で10年の丁稚奉公に出されたのである。留蔵は母のためなら、と喜んでこの話を受けた。

奉公先では叱られる毎日であったが、商才ある主人の商売のコツを現場で学ぶことができた。使い古しの教科書や教材を買い、家人が眠りについたあと、そっと明かりを灯し、勉学に励んだ。

こうして、10年後にはたくましい働き手に成長し、奉公先は留蔵のおかげで収入が増して感謝され、愛する母の待つ家に帰ることができたのである。実力を蓄えた留蔵は青年学校の教師に採用されるまでになった。

しかし、その後、日本は満州事変を経て、長く暗い時代に突入していく。中国大陸、また南方戦線と送られる中、不思議にタイミング良く難を逃れ、終戦を迎える。そして間もなく英子夫人に導かれてキリスト者となった。

知人のすすめで始めた土木建築の会社は、聖書の土台にしっかりと立つ経営を続け、好不況に関わりなく大きく成長していった。クリスチャンとしての破格の信用を勝ち得ていたからである。

99歳を目前に天に召されるまで、留蔵は一筋に神の栄光のために人生をささげ、特に、国際ギデオン協会の働きにおいては、他に例を見ないほどの顕著な功績を残して関係者を驚かせた。

今回は、実業家として、信仰と誠実を見事に両立させ、キリストにある希望を多くの人に伝えた一人の信徒の生涯をご紹介します。

記

1. 日時 : 2018年4月13日(金) 10:30 AM より
2. 場所 : ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師 : 尾崎富雄(ゴスペルホール代表)